

# 第一回中間報告

(報告期間 2020 年 9 月 28 日～12 月 22 日)

国際ロータリー第 2710 地区

2020-2021 年度 グローバル補助金奨学生

真加部 湧大

報告書提出日：2020年12月22日

派遣クラブ：福山北ロータリークラブ

カウンセラー：奥野 一成様

受け入れクラブ：Rotary club of Newham

カウンセラー：Mr. Emil Petrov

留学先：University College London

専攻：Master of Development Education and Global Learning

## 1. 学業の開始

私が所属するMA Development Education and Global Learning は11か月のプログラムで、本年9月末に1st Semester が始まり、2021年9月末の修士論文提出をもって終了予定です。

コロナウイルス拡大の状況下で、本年の授業は基本的にオンラインで行われることが決まりました。学生ビザの発給が間に合わなかったこともあり、1st Semesterは在宅で授業に参加することを決めました。

1st Semester では、

- Principle and Practice of Development Education
- Dissertation

の2つのモジュールを履修しました。2つのモジュールとも、講師の動画の視聴や課題資料を読んだ後、他の生徒とディスカッションやチャットを通して内容を深め合っていく、といったような学習形態でした。

Principle and Practice of Development Educationでは、「開発」「開発教育」という概念がこれまでどのように捉えられ、実践されてきたかについて、これまで唱えられてきた様々な理論を読み解きながら理解を深めていきました。最初は、日本人は私以外一人もおらず、会ったこともない方々にオンラインでの学習では相談し合うことが難しく、不安ばかり募る日々でした。しかし、モジュール終盤では個別にzoomやWhatsApp等を活用して相談できる教授や友人を作ることができ、1回1回の理解を深めることができたように思います。現在は最後の課題であるAssignmentに取り組んでいます。これまでの学びをもとに自身がどのように開発教育を捉え、実践していくかについて論じていきます。

どうすれば人々が開発課題や地球課題をより自分事として考え、他者の気持ちや立場に立って行動しようという意欲が持てるようになるか、引き続き、少しでも実践に活かしていけるよう学んでいきたいと思います。

Dissertationでは、修士論文作成にあたっての研究の基礎について学習しました。英語での理解が難しい部分もありましたが、日本語の本を比較して読んだり、質問をしたりしながら理解を深めていきました。

## 2. 生活の立ち上げ

COVID-19の影響などによりなかなか渡航できずにいましたが、12月15日に無事留学先のロンドンに渡航することができました。結局、全てをオンラインで受講できる私のコースでは1年間の学生ビザを発行していただくことがかなわなかったため、最大半年しか滞在することはできず、学習は引き続きリモートにはなりますが、2nd Semester, 3rd Semesterの間現地で生活できるよう、12月中旬を待って渡航することを決めました。住居は大学まで徒歩30分、バス1本で10分と便利なところにあり、買い物をするスーパーやネット環境も問題なくあり、なんとか留学生生活をスタートさせることができている。フラットメイトは皆自国へ帰国しており、大きなスペースを一人で使っているような状況ですが、1つ下の階に住む方が本当によくしてくださり、困ったことを聞くことができる環境も整ってほっとしました。12月22日現在、ロンドンは、コロナウイルスの危険度を示す指標がTier 4と最大値となっており、外出などの規制が強化されています（以下にTier 4の状況を紹介します[在英日本国大使館 参照]）。留学できる期間が短くなった分、なんとか充実した日々にしていきたいという焦りもありますが、まずは安全に、健康に留学生生活を送っていけるよう留意していきたいと思います。

### 【Tier 4:新たな制限措置の主要点】

- (1) これらの地域の居住者は、仕事、必要不可欠な活動、教育など合理的な理由がある場合を除き、家にいなければならない。
- (2) 必要不可欠でない小売店、屋内ジム、レジャー施設及びパーソナルケアサービスは閉鎖しなければならない。



部屋の内装

(3) 可能であれば在宅勤務をしなければならないが、それが不可能な場合、例えば、建設や製造といったセクターでは仕事に行くことが許される。

(4) 法的に認められた理由以外でTier 4 地域の内外への移動は行わべきでなく、これらの地域の居住者は外泊してはならない。仕事目的等の限られた例外の場合を除き、海外渡航は認められない。

(5) 人々は、屋外の公共スペースにおいて他の世帯の1名としか会うことができない。

### 3. 受け入れロータリークラブとのかかわり

派遣クラブである福山北ロータリークラブの方々には、選考から出国まで本当にお世話になりました。9月予定の出国が難しくなり日本からオンラインで年末まで授業を受けることになった際も、気にかけて度々声をかけてくださり、本当に救われる思いでした。出国の際にも空港まで数名の方が見送りに来てくださり、少しでもよい報告ができるように頑張りたいと、決意を新たにしました。

受け入れクラブのカウンセラー、Mr. Emil Petrovとは日本にいる間も何度かメールでやり取りをしました。ロンドンへの到着報告をしたところ、1月以降のオンラインでの会合に招待してくださるとのことでした。次回の報告時には、写真と合わせて受け入れクラブの方々との交流の様子を紹介できるようにしたいと思います。

10月3日には、イギリス国内に留学する世界中のグローバル奨学生が集ったのzoom meetingがありました。

### 4. 見えてきた課題及び今後の目標

渡英してからまだ1週間しかたっておらず、何が分かっているのかが分かっていないような状況ですが、2nd Semesterが始まる年始までに生活リズムを整え、万全の態勢で学業に励むことができるようにしていきます。

授業では、オンラインであっても積極的に授業外に教授や友人に声をかけ、学習理解を深めていきたいと思います。また、なかなか直接は会えなくても、1人ずつ信頼し合え、卒業後も深く関わり続けることのできる友人を作っていきたいです。

また今回は渡英直後、またロンドンはロックダウン状況だったこともありあまり写真を撮ることができませんでしたが、次回報告の際はzoomミーティング時も含め、写真なども掲載しながらより具体的に報告できるようにしたいと思います。



キャンパスの外観